

ネパール ダウラギリ山群 ツクチェピーク前衛峰北東壁登攀 (6,490m)

伊 藤 仰 二 (同人クライミングファイト)



ツクチェピーク北東壁

2023.12.17~23 1,700m M7 AI5R

メンバー 伊藤仰二、賀門尚士

12.17 晴

1:00 起床

3:00 BC4,500m出発

5:30 4,750mより登攀開始

10:30 就寝 5,300m泊

私のリードでヘッドランプを付けて登攀開始する。出だしからプロテクションの乏しいミックスクライミングとなり、その後は雪壁を同時登攀する。時折易しい氷が出てくるがそのまま同時登攀を続

け、1時間半で200mの高度を稼いだ。この頃にはすっかり明るくなっていた。リードを交代してさらに雪壁を同時登攀し、氷のセクションの手前でピッチを切る。易しいミックス登攀から10mくらいのスノーシャワーの激しいアイスクライミングになる。この日は稜線の風が強く吹いているらしく、ルンゼのスノーシャワーが激しい。次のピッチもスノーシャワーの中を行くミックスとアイスクライミング。下部の核心M6。ここで日没となるが、あまり良いビ



ツクチェピーク北東壁1日目



ツクチェピーク北東壁1日目の核心M6

3. 海外登山記録

バーク場所が見つからない。アイスハンモックを上手く使えず、スコップで雪面をカットして何とかビバークテラスを作る。この場所が大失敗で一晩中スノーシャワーに苦しめられることになる。その夜は-19度まで下がり、ツェルトの中でも-10度を下回っていたので、手袋をはめたままでないといと寒くて作業ができない。就寝中は埋められそうになるくらいにスノーシャワーがひどい上に、ツェルトの中は霜地獄。1日目にしてスリーピングバックカバーがない私たちのスリーピングバックは経験したことがないくらいびしょ濡れになった。降りるべきか相棒と協議を行った。天気予報は22日までは晴。「降りたくない。1日でも長くクライミングがしたい。」という思いが勝った。このまま登攀を続けて、晩にスリーピングバックの乾かしパーティをすることにした。

12.18 晴

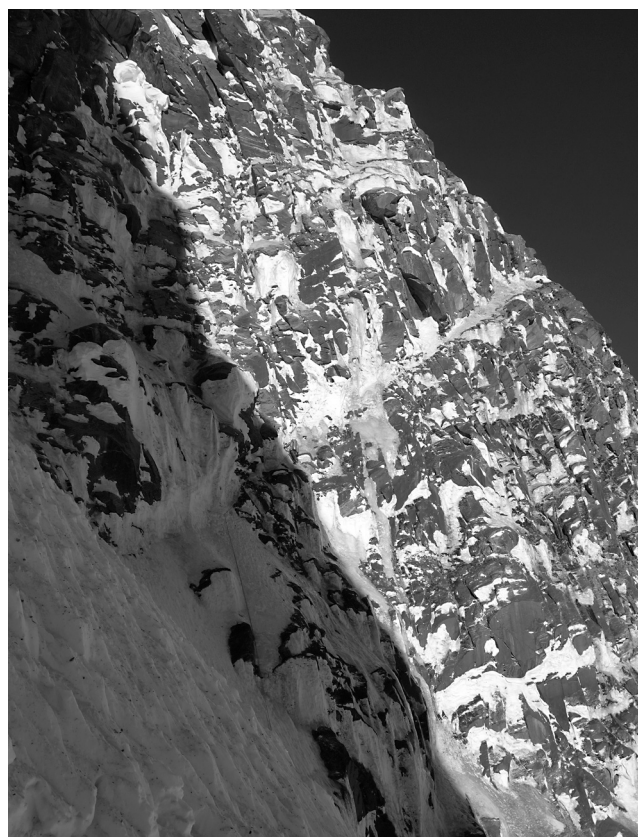
5:00起床

8:00出発

11:30就寝 5,700m泊

天気は良くニルギリの眺めは素晴らしい。しばらく雪壁トラバースが続き、第2の核心5,500mまで同時登攀をする。ここから悪そうな5mくらいのツララが垂れたピッチとなる。賀門のピッチだが彼はおもむろに靴の紐を締め直し、ザックを置いて登り始めた。明らかに核心ピッチと思われるこのピッチは登れるのかさえ怪しい。ツララ部分をどうこなすのか、どこから乗り移るのか、抱きかかえたまま落ちる可能性もある。彼は私が予想していたより早くツララに乗り移った。かなり浮いている音がする。今でもその時の音を鮮明に覚えている。もう引き返せないというところで運良くキャメロット2番が決まった。その上も悪そうで悪戯に時間が過ぎていく。

ようやくテラスに這い上がり姿が見えなくなった。さすが粘りの賀門。私もフォローしたいところだが荷揚げがあるので、テンションかけながら登っていく。M7くらいはありそうだ。このピッチのみリード&フォローが叶わなかった。その後は70度くらいの氷が続く。暗くなり始めたがビバーク地は簡単には見つからない。しばらく探してスノーシャワーがなく雪面をカットできそうなところを見つける。かろうじて2人分のテラスをスコップで作リツェルトにもぐり込む。水分1人1リットル摂取しアルファ米100グラムを流し込む。私は100グラムのアルファ米でそこそこの満足感があるが大喰いの相棒は全く食った気がしないみたいだ。すべてを済ませスリーピングバックの乾かしパーティを始めようとスリーピングバックを袋から出すと凍っていて形状記憶された状態。自分で膨らむ気が全くない。いや完全にスリーピングバックが死んでいる。最近こんなにひど



ツクチェピーク北東壁2日目トラバース

いスリーピングバッグは見た記憶がない。ツェルトが狭すぎてストーブで外側を乾かせば内側に霜が付いてしまい、内側を乾かせば外側に霜がついてしまう。2～3回繰り返したが、乾かしているのやら濡らしているのやら分からなくなり止めてしまった。すでに23:30になっていた。明らかに濡れているスリーピングバッグで寝てみた。意外に疲れも手伝ってそこそこ眠れた。日本から送られてくる23日の雪予報はなくなっていた。

12.19 晴

5:00起床

8:00出発

10:30就寝 5,950m泊

朝日が眩しく、非常に心地が良い。数時間しか当たらない日差しを堪能した。雪田から氷の右上バンドを登るが見た目より悪い。この弱点がなければ他に上部に行けるところはない。90mくらい右上レピッチを切った。その後雪田までは傾斜が落ち、ビバークできそうな岩の下まで150mくらい同時登攀となり、中間部の雪田に繋がっている。上部はさらに傾斜が増し、左右に氷の筋が見える。当初は悪く見える右側の氷を登る予定だったが、日があたると落石が結構あるため、より安全と思われる左側の氷に行くこととする。あまりスノーシャワーがないと思われる岩の下にアイスハンモックを使ってビバークをする。このアイスハンモックは私がダイニーマの生地に着ぐるみのテープをクロスに縫い付け四隅にループを作ったもので、約150グラム。大きさは2.5×1.2mある。ハンモック状に吊り下げそこに雪や氷を入れてテラスを作り、その上にツェルトを張る。ハンモック部分だけで50cmほどテラスの幅が増えることになる。この日は雪の下にすぐに氷が出



ツクチェピーク北東壁4回目のビバーク、アイスハンモックにて

てきた。氷を砕くこと1時間でハンモックと合わせて幅1mのテラスが出来上がった。しかし、氷を砕いた壁側の床は固く、ハンモック側はいくら固めても不安定だ。やむなく壁に2人がもたれるようにしてクロスになって寝ることにした。私が下に寝て、賀門が膝を立てて寝た。始めは良かったが、徐々に賀門の足が下がってきて私の足を圧迫する。私の足は冷たくなってくる。賀門の足を私が上に持ち上げる。これを一晩中繰り返した。この寝方は失敗だった。

小さな落石、落氷が多くツェルトが小さい穴だらけになってしまった。その一つに2cmくらいの穴があり、私が糸と針で補修した。また、私のスリーピングバッグは体温で乾いて来たような気がしたが、そんな筈はない。高所の影響でどこかおかしくなっているみたいだ。

12.20 晴

5:00起床

8:00出発

11:30就寝 6,200m泊

ここまで来るとトップアウトしたいという欲が一段と強くなり、気合いも入ってきた。ここから残り

3. 海外登山記録

の500mは、錫杖前衛峰くらいの傾斜があると思われる。70度くらいの氷のピッチから始まり、次のピッチは傾斜の強い浮いた氷。AI5R。氷のピッチは計4ピッチで、登り終えたころにはすでに暗くなり始めていた。ビバークする場所がないので、さらに上を目指す。易しそうに見えたジェードルにヘッドランプを付けて突っ込むが同時登攀できるほど易しくはない。ピッチを切り、賀門にビバーク地を探しに行ってもらふ。良い場所が見つからずに右往左往し、ようやく見つける。中途半端に傾斜した壁にテラスを作ることになる。アイスハンモックを駆使してテラスを作っている最中に事件は起きた。相棒がハンモックを踏み抜いてしまった。どうやらハンモックに鋭い石か氷が入ってしまい、踏み固めている間にハンモックが破れてしまった。それでもテラスは保たれていたの2人で話し合い、「これはなかったことにしよう」ということで合意した。大きな穴のあったハンモックの上にツェルトを張った。

それにしてもこの壁の雪は汚い。ほぼ砂利混じりだ。いや砂利というより石混じりだ。上部に来るに従いましになっている気はする。砂利を濾す余裕もなく上澄みだけを飲むようにしていたが、それでも相当量身体の中に入ってしまったのだろう。私たちは一つのコップで回し飲みをしていたが、最後の一口の譲り合いは日に日に激しさを増していた。

12.21 晴

5:00起床

8:00出発 6,480m泊

必ず今日中にトップアウトするという思いは強かった。雪壁を右にトラバースするが、上部に繋がっているはずの大きなクロアールの入り口が分からない。壁の写真を賀門が確認する。私は老眼で細部が



クライムダウンをする6300m付近

良く見えない。そこから被っている悪いミックス登攀を強いられる。そこを抜けると雪壁、ラッセル、襜越え、ひと通り出てくる。私は6,300mあたりからかなりの疲労と寒さを感じ始めた。手足も冷たくミトンをはめてダウンジャケットを着たまま登攀を続けた。1日のうち陽が当たるのはわずかで長くても2時間程度、ほとんど当たらない日もあった。アイススクリーが辛うじて利いていそうなアイスクライミングが続いた。稜線らしきものが確認できるが一向に近づいて来ない。あと数ピッチのところで暗くなってしまい、またもや夜間登攀に突入する。稜線近くにビバークテラスを見つけ、6,480mで5回目の夜を迎えることになった。私は明らかに調子が悪く空中浮遊している感じがする。ここまでで壁は終わりで私たちは5日間かけて1,700mの壁を完登したことになるが、全く何の感情も湧いて来なかった。それよりこれから始まる標高差4,000mの下降に対する不安のほうが勝っていた。

12.22 晴

5:00起床

8:00出発 5,000m泊

翌日になっても私の体調は回復しなかった。一刻

も早く降りた方が良いのは明らかだった。賀門だけ20m上の前衛峰の頂上まで上がり、その後下山することにした。懸垂下降やクライムダウンを交え21時まで下降が続けたが、私たちの食料がデポしてある4,800mまではたどり着けなかった。直線距離で200mくらいのデポが見える位置まで迫っていた。稜線上は積み木状に岩が重なっている鋭い岩稜で巻くことも近づくこともできない。この日の昼までの食料しか持っておらず、ここからは忍耐戦となる。私は少し予備食を持っていたが、相棒はお腹に蓄えていた予備脂肪を燃やし始めた。この日は傾斜した岩稜の上で星空を眺めながらのオープンビバークになった。不思議なもので食べものがないと思うとあまりお腹が空かない。身体が諦めているのだろうか？また、なぜか良く眠れた。

12.23 晴

4,600m泊

明るくなり全体像が見えてきた。岩稜全体を大きく回り込むことにした。懸垂下降を交え300mほど下降して回り込み、テントが張れそうな雪が堆積した場所に出た。そこにジェットボイル以外の装備を置き、4,800mのデポを回収しに2人で向かった。200m



サーダーと合流後4200mで撮影、中央に少し見えているのがツクチェピーク

の登り返しだ。空腹とこれまでの疲労で身体は思うように動かない。3～4歩歩いては一呼吸する。加えてガレが堆積した上を行くため、よく足元をすくわれる。2人でフラフラ忍耐歩きを2時間続け、ようやくデポにたどりついた。翌日に4,300mまでサーダーに上がって来てもらい、私たちの山行は終了した。2人とも手足に軽い凍傷を負っていた。

まとめ

トップのザックの重さは約3キロ、フォローは約10キロ。今回はリード&フォローをするため、徹底的な軽量化に努めた。装備の欄にそれぞれの重量を示した。さらに相棒は服のタグを全て取り、150g軽くなったと笑顔で話していた。私がカメラを持って行くと言うと「そんなもん持って行くんやったらアルファ米持って行きたいわ」と言われる始末。カメラは私の首にかけたままにするということで納得してもらった。その甲斐もあって6日分の食料、燃料が入ったバックパックを担いでの登攀が可能になった。食料に関してはこの種の登攀では多い気がするが、絞り過ぎると寒さにも影響するのでこの程度で良かったと思っている。また、今回使用したアイスハンモックのおかげでお座りビバークをしなかったためにかなり体力の温存ができた。

「6,000m峰のバリエーションをカッコ良く登りたい。」という夢を実現するために約5年間もの間、冬季にはほぼ毎週共に登り続けた積み重ねが今回の登攀に繋がったのだと思う。そこで私も大きく成長させてもらったのを実感して止まない。また、好みの壁を探すにあたって1ヶ月半の間、様々な条件を満たすためにパソコンに向き合って探し続けてくれた賀門君に感謝したい。

今回は本当に良いサーダーに助けられ、ネパールエージェントのコスモアドベンチャーには細やかな

気遣いを頂き、登山活動に集中できたことは言うまでもない。またネパールまで来てサポートしてくれた泉さんをはじめ、私たちの遠征のために御尽力下さった方々にこの場をお借りして御礼申し上げたい。最後に「伊藤さん、早く遠征に行かないと身体が動かなくなりますよ。」と言って私を奮い立たせてくれた賀門君ありがとう。



ツクチェピーク北東壁

高所順化を終えアタックに至るまでの動向

- 12. 4 雪 ツクチェ村 (2,600m) で停滞
(BC4,500m 降雪約 1 m)
- 12. 5 曇 BC に向け出発。2,600m～3,500m
雪多くあまり進めない 3,500m泊
稜線付近のセラックが大きく崩れた跡を発見
極めて不安定な状態と見受けられた
- 12. 6 晴 3,500m～4,000m
雪多くあまり進めない 4,000m泊
- 12. 7 晴 BC 4,500mに上げたデポを回収し、4,000m泊
- 12. 8 曇 レスト 4,000m泊
- 12. 9 曇 今回のルートとは別のミックス壁試登 4,800m泊
- 12.10 晴 今回登ったルートの4,800m取付にデポ 4,000m泊
- 12.11 曇 レスト 4,000m泊
- 12.12 雪 BC 4,500mに荷揚げ。1 mの降雪。夜中に3回除雪 BC 泊
- 12.13～15晴 雪の沈降待ち BC 泊
- 12.16 曇 取付までトレースをつけに行く BC 泊
- 12.17～22 5泊6日の予定でアタック
- 12.23 曇 4,800mのデポ回収
- 12.24 晴 ツクチェ村に下山 この日が帰国予定日で飛行機に乗り遅れた
- 12.27 賀門帰国
- 12.30 伊藤帰国

装備

ロープ7.1mm×60m 2本
カラビナ 17枚
スリング60cm 8本
スリング120cm 3本
キャメロットウルトラライト #1～#3
キャメロットZ4 #0～#0.75
トライカム 6個
ロックス 6個
ボールナッツ 3個
ピトン 6本
スクリュー 7本
アイスフック 1個
ナノトラクション 2個
シャベル (BDトランスファーLT)
アイスハンモック145g ダイニーマ (伊藤製作)
スリーピングバッグ650～700g (ウエスタンマウンテニアリングとシートゥーサミット)
ダウンジャケットは480g 程度のもの
ツェルト280g (アライテント製特注)
バックパック50L 560g (伊藤製作)
バックパック30L 180g (ダイニーマコンポジットで作ってもらった)
マット「山と道」1m×0.5m×10mm、75g
ガーミン インリーチmini2
ジェットボイル

下降用ギア

エイリアン小 3個
ロックス 6個
ハーケン 6枚
下降用ロープ 5mm×20m
アバラコフフック 1個

燃料

プリムスウィンターガス
450g 1缶
230g 1缶
5泊6日分

3. 海外登山記録

食料

アルファ米 1食100g×2日分
1食80g×3日分

行動食

プロテインワッフル40g×1
エナジージェル日本新薬40g×2
一食分

飲み物

エブリサポート（経口補水パウダー）

現地情報まとめ

- ・エージェント会社 コスモアドベンチャー

以前のコスモトレックにお世話になっていたこともありここにした。

飛行機代 成田～カトマンズ（Open）預荷物35kg 手荷物7kg	140,000円
飛行機代 カトマンズ～ポカラ（30分）	\$108
飛行機代 ポカラ～ジョムソン（朝しか飛ばない、よく欠航する）20分	\$160
Jeep チャーター カトマンズ～ツクチェ（15時間ほぼダート）	\$575
Jeep チャーター ポカラ～ツクチェ（6時間ほぼダート）	\$375
ツクチェピーク登山料（冬季1人）	\$100
保険代（リエゾンとガイド）	\$1,354
リエゾン装備代	\$2,000
ガイド装備代	\$550
ガイド日当	\$24
コスモ事務手数料	\$900
プリムス缶ウィンターガス450g（コスモ手配）	\$23
プリムス缶ウィンターガス230g（コスモ手配）	\$15
宿泊代+2食（ムクティナートの場合）標高が上がれば高くなる	約\$25
ビザ90日	\$125
SIMカード28日間 35GB（NTC）空港で買える	1,200Rs

20年ぶりのネパール遠征だったが、物価や人件費は3～5倍になっていた。円安も手伝って非常に厳しいものになった。ただ、あまり節約しすぎると労力を使って消耗してしまうので、任せることができることは多少割高になってもエージェントにお願いした。

しかし、今回は冬季の申請にしたため登山料は抑えられた。また、ポーターによる荷揚げもなかったのも、それによる人件費はほとんど発生しなかった。今回、私たちについてくれたガイドが非常に優秀で協力的だったためかなりの部分で助けられた。彼の協力があったお陰で登れたと言っても過言ではない。

また、多くの場所でフリーWi-Fiがあり使用できた。電話による通話も以外とつながる場所が多かった。SIMカードが安いので空港で購入した方がよい。